

## 全国市街地の変遷

### 昭和の記憶から次代へ

#### 大大阪時代

大大阪時代とは大阪市が大繁栄を迎えた黄金期をいう。江戸時代は「天下の台所」とされ、中之島・堂島には諸藩の年貢米を貯蔵する蔵屋敷と豪商の屋敷が集まり西日本の経済の中心として繁栄した。年貢米は船で運ぶため多くの水路と橋が設けられ、「八百八町」に対し

「八百八橋」と呼ばれていた。ところが、明治政府が進められた諸政策の推進が原因で大阪の地位は低下した。しかし五一歳代友厚、第7代大阪市長・関五代友厚は明治中期大阪経

度に再び繁栄期を迎える。この時期を大大阪時代という。

五代友厚は明治中期大阪経済の復活に尽力。やがて到来する大阪時代にバトンを手渡した

ことになった。大阪時代にバトンを手渡した大阪経済界の重鎮である。そして1923年に大阪市長・関一が登場する。関市長は道路幅6mの御堂筋を44mに拡幅するなど、大阪の様々な都市改造事業を積極的に推進。25年には東京府東京市の人口を追い抜き、大阪市を世界で6番目の人口を有する東

洋の復活を願い、商業の組織化、信用秩序の再構築を図り大阪証券取引所・大阪商工會議所等を設立し初代商工会議所会頭として大阪経済の復活に尽力。やがて到来する大阪時代にバトンを手渡したことになった。

#### インバウンドバブル

日本政府の観光政策の推進により、大阪を訪れる訪日外国人観光客は5年前の約6倍、951万人に達し、インバウンドバブルを突き進んでいる。背景には、関空発着CCの充実、コンパクトな人

のけん引役だった梅田地区に代わって外国人観光客の多くが訪れる難波・心斎橋地区と、宿泊施設の不足に対応するため外国人観光客を中心にとした宿泊特化型ホテルの需要の強い地域が新たな地価上昇のけん引役となっている。

再び大阪に新大大阪時代が

到来するかどうか。大阪ケル

メ文化「くいだおれ」を伝承

しつつもJR大阪駅北側の貨

物ヤード跡地16ha(梅北2期)

の開発、関空と大阪を結ぶ鉄

道「なにわ筋線」(31年春開

業予定、事業費3000億円)

の建設、ならびにI-R(特定

複合観光施設、万博の誘致、

更に大阪市を廃止し諸政策と

許認可権等を大阪府に一任し

複数の特別区に分割する大阪

都構想の実現の成否にかかる

ているといえる。

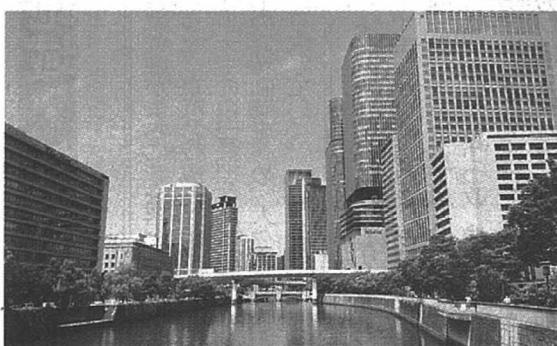
その結果、今まで地価上昇

の背景となっている。

(日本不動産研究所近畿支

社、不動産鑑定士・太田雅美)

### 大阪市 新「大大阪時代」へ乗り越えるべき課題



(上)再開発が進み大きなビルが立ち並ぶ中之島  
(左)イチヨウが並ぶ中之島

並木の御堂筋

（右）イチヨウが

立ち並ぶ中之島

並木の御堂筋

（左）イチヨウが

立ち並ぶ中之島

並木の御堂筋

（右）イチヨウが

立ち並ぶ中之島